

共同プロジェクトで 高度な職人技を次世代に

製造会社の解散発表で 全国から注文殺到…のその後

「人が押し寄せて来るという経験を初めてしました」と語る巢山重雄さん（八十五歳）。地球ゴマ製造販売のタイガー商会（千種区）の工場長だ。今年二月、同社の解散決定が報道されると、惜しむ声が電話で殺到。「どうしても地球ゴマが欲しい」とあまりに多くの人が来社するため直接対応をやめたほどだった。注文はファックスだけに限ったが、その電話も一日中鳴っていた。

同社がネット販売をしていな



思いを語る巢山重雄さん

開始で爆発的なブームを迎えた。一時は年間二〇万個以上を製造したが、粗悪な模造品が大量に出回ったため出荷を数年間停止。その間に模造品は市場から姿を消し、同

かったのが逆に火をつけたのかもしれない。ネット上では八〇〇円〜一六〇〇円の価格が二万円までつり上がった。それほど「元・科学少年」に思い出深いものだった。

タイガー商会の創業は大正十年。当時の名古屋は機械時計が地場産業で、初代社長は時計の部品をおもちゃに転用をと地球ゴマを考案した。昭和二年には世界各国に輸出を開始。戦後は全国を実績販売し徐々に知れ渡り、昭和三十年代のテレビコマ・マーシャルの放映

社は実演販売を再開、少量生産に切り替えた。「これまで実演販売は続けてきました。地球ゴマに見入って何時間もその場から離れない子もいましたね」と巢山さん。玩具の多様化で製造数は当時の一〇分の一程度になったが、玩具としてだけでなく、ジャイロ理論を立証する「科学教材」として大学などで継続的に需要があった。

しかしすべて手作りで高度な職人技が必要な地球ゴマ。後継者が育ちにくく、職人の高齢化などで解散が決まった。このニュースを受け会社を引き継ぎたいという申し出が殺到。約五〇の個人・法人から製造を継ぐ会社を数社まで絞った。ここで現行のデザインを踏襲しつつ、機能やデザインを改良した「次世代地球ゴマ」を製造していく予定。販売は「発祥の地名古屋」で、玩具会社を起業する構想だ。今後は製造・販売を分けながら、共同プロジェクトとして開発していく。「経営に長けた方の支援があれば」と巢山さん。支援を考えられる方は東海財界へ一報を。